記錄

日本保育學會記事

「日本保育學會」は、昭和二十三年の秋に發足してからここに二年半を經過した。當時保育に關してやゝもすれば科學的な研究が輕視されがちな實狀をうれえた同志が集まり、保育學に關するわが國最高の研究機關として孤々の聲をあげたが以後順調な歩みを示して來た。この學會の事業のうち、昨年の七月までのものについては、本誌の第四十八卷第二・三號「日本保育學會第一回大會研究發表號」と第四十八卷第七八號「日本保育學會第二回大會研究發表號」に述べてあるので、それ以後の經過について以下略述する。

一　第三回大會

第三回大會は本年六月十一日（日曜）奈良女子大學講堂で開催せられた。

昨年の總會で、次期大會の開催地を京阪神地方に限定し、大會の準備を副會長小川正通氏に一任した。そこで小川氏は、第三回大會準備委員長として直ちに臨時委員を決定し、大會準備事務局を奈良女子大學に設け、數度の準備委員會において大會開催地を奈良市とし、期日を六月十一日に決定して、次のごとく行われた。

プログラム

（山下俊郎）

開會の辭

研究發表

一、幼兒の問題行動に對する親の態度についての調査　愛育研究所　竹田俊雄

二、幼兒の繪畫について　厚生省　副島ハマ

三、就學前の教育診斷の結果について　大阪保育會　堀重三

四、IQに關する考察—環境條件及び發達曲線その他　京都保育連盟　島津眞峰

五、フレーベルの恩物について　廣島大學　莊司雅子

六、幼稚園の家庭的性格と學校的性格　奈良女子大學　小川正通

七、精神薄弱幼兒の保育に關する研究　愛育研究所　津守眞

八、幼兒の科學教育について　大阪學藝大學　阿部安二

シンポジウム「幼兒の早教育の問題」午後二時から

司會　東京家政大學　山下俊郎

一、教育學より見たる早教育について　愛育研究所　村山貞雄

二、幼兒畫の因子と早教育の是非　畫家　宮武辰夫

三、幼兒の頭腦活動と生理的適應

四、早教育のねらい（醫學の立場から）　名古屋大學　堀　要

五、早教育の心理學的限界　京都大學　大西憲明

閉會の辞

研究發表及びシンポジウムの内容は雜誌「保育」の日本保育學會第三回大會特輯號に掲載せられている。なお本大會の來集者は五百八十名（概算）であつた。

二、總　會

會則第二十條による昭和二十五年度通常總會は、右の大會に際して開催せられた。

先ず、小川副會長が議長に指名せられ議事がすゝめられて、竹田委員より、事業報告と事業計畫の説明があり、村山委員より決算及び豫算に關する報告があつた。すなわち、昭和二十三年度の事業報告としては、第二回大會の開催、研究誌の刊行、研究會の開催、會報の發行、共同研究、研究連絡、その他について報告せられた。

又昭和二十五年度の事業計畫としては、大會の開催、研究誌の刊行、共同研究、研究會の開催、講習會の開催及び會報の發行についての計畫が説明せられた。

決算報告の大要は次の通りである。

收入合計	四萬六千八十四圓四十六錢
内譯　前期よりの繰越金	八千百四十二圓六十八錢
會　費	一萬八千二百四十八圓七十八錢
編集費	一萬八千圓
事業費	千六百九十三圓
支出合計	三萬六千三百十九圓
内譯　人件費	四千八百圓
事業費	二萬九千八百二十二圓
物件費	一千百九十七圓
雜　費	五百圓
殘金	金九千七百六十五圓四十六錢

豫算報告の大要は次の通りである。

收入合計	八萬五千圓
内譯　會　費	三萬圓
事業費	一萬五千圓
寄　附	四萬圓
支出合計	八萬五千圓
内譯　人件費	七千圓
事業費	七萬三千圓
物件費	三千圓
雜　費	二千圓

更に議長より、次期大會の開催方法について諸問があり、その結果、第四回大會はこれを東京で行うことになつた。

なお、役員の改選は本年十一月で任期が滿了になるが次期總會まで改選を延期することや、總會の定員數について更に研究をすゝめることなどが決定せられた。

三、共同研究

本學會々則第三條による共同研究は、昨年九月副會長山下俊郎氏を研究委員長として次のごとき顔ぶれをもつて發足した。

委員長　山下俊郎

委　員　青柳義智代　秋田美子　荒木直高

及川ふみ　小川正通　鎌田しん
上村哲彌　加賀美日聰　兒玉省
鈴木とく　副島ハマ　高崎能樹
竹田俊雄　多田鐵雄　谷川貞雄
玉越三朗　土屋マサ子　平野恒子
古木弘造　松島正儀　三木安正
村山貞雄　森脇要　山下俊郎

しかして十月共同研究計畫打合せ會を開いた結果「**幼稚園と保育所の一元化の研究**」について、先ず具體的に研究をすゝめることになり、文献研究小委員會と意見調査小委員會とを設けた。前者は委員に、山下俊郎氏、多田鐵雄氏、谷川貞雄氏及び村山貞雄を、後者は、委員として山下俊郎氏、竹田俊雄氏、鈴木とく氏、鎌田しん氏及び小川正通氏が委囑せられた。このうち後者はその活動を活潑に行い、質問書を作製し調査を終り現在調査結果を集計する段階に至つている。

四、その他

第二回大會における發表をまとめて、「日本保育學會第二回大會研究發表號」を「本誌」の特輯號（第四十八卷第七・八號）として發行した。なお事務局は現在も東京都港區麻布盛岡町一愛育研究所におかれている。

（村山記）

幼稚園關係者懇談會

六月二十四日東京都文京區立文京第一幼稚園において、幼稚園關係者の懇談會が午後一時から行われた。

當日の參會者は、文部省側は辻田新局長外六名、東京都教育委員會、區役所側は沼澤主事外三名、幼稚園側はお茶の水女子大學附屬幼稚園主事及川ふみ先生外十五名で、辻田局長の挨拶につづいて山下家政大學教授と木下文京區役所本郷支所教育課長の挨拶があり、文部省玉越事務官の進行、山下氏の司會で主として幼稚園の教育内容の問題、教員の待遇及び養成の問題幼稚園普及の問題等について懇談が行われた。例年にない暑さにもかかわらずなごやかなうちに、熱のある意見が交され、午後四時文部省初等教育大島課長、文京第一幼稚園板橋園長の終りの挨拶で盛會裡に會を終つた。

こどものレクリエーション指導者講習會

去る七月十五日（土）より四日間、茨城縣の西山文化研究所に於て標題の會合が催おされた。

參加者は兒童福祉施設の職員と子供會の指導者が大部分で保育所の職員も約十名程參加した。西山文化研究所は茨城縣太田町の郊外にある西山莊の山つづき、松林の丘の上にあり講習生は樹下のあけくれに、子供の自然の生命の發展を思いつつ講義をきき、實技をならい、ディスカッションをし